

7月16日討論要旨（アメリカの戦後台湾政策）

林礼釗（STA）

Guiding Question

米中和解前におけるアメリカの台湾政策の特徴は何でしょうか。その特徴を踏まえた上で、米中和解によってアメリカの台湾政策がどのように変化したのか。これらの問題を踏まえて、なぜアメリカは台湾防衛をし続けているのか、その理由を考えてみよう。

討論では、主に以下の意見が提起された。

A 米中和解前までは、アメリカは「大陸反攻」を掲げる蒋介石政府を支持する形で、中国共産党を抑えようとしていた。しかし、1978、79年以来、中共政府は確実に成長してきた。中国の国際地位を無視できないアメリカは台湾を戦略的窓口として、中国を抑え、台湾を防衛し続けている。

B 現在の視点から考えると、アメリカは中国に対して平和的手段で台湾問題を解決しようと訴えた一方、台湾には武器を売っている。アメリカにとって、太平洋を支配するために台湾は重要である。また、アメリカは中国の台頭に危機感を感じ、中国を抑止しようとしている。

C 共産党につくか、国民党につくかという問題で、アメリカは両者とも距離を置いて行動していた。台湾問題は沖縄問題と類似性を持っている。台湾を支配することで、アメリカは中国大陸を抑えることができ、または太平洋地域の紛争に対してすぐ行動できるため、台湾を重要視している。

担当教員の総括

米中和解前におけるアメリカの台湾政策の特徴は①台湾防衛、②台湾地位未定論、③台湾海峡の安定維持、④国府支持があげられる。そして、米中和解後のアメリカの台湾政策について、④は変化したものの、①②③は継続していた。なぜアメリカは台湾防衛を継続させたかという、「台湾の住民の福祉と安全を損なわないようにする道義的責任」があり、また「他の諸国の信頼を維持するため」だとアメリカ側はその理由を主張した。現代アメリカにとっての台湾を考えると、台湾防衛をし続けている理由は二つがあると考えられる。一つ目は、政治的意義である。1980年代以降の台湾の民主化によって、アメリカは一層台湾を見捨てることができなくなった。民主主義国家・地域を見捨てる、アメリカが一貫して重視している諸国からの「信頼」は損なわれることとなる。二つ目は軍事的意義である。中国の台頭、とりわけ海軍力の急速な増大が見られるように、中国はアメリカの太平洋支配に対して、挑戦する構いを見せ始めた。中国は現在では宮古水道かバシー海峡を通して太平洋に出るが、台湾を取れば、直接太平洋に出られるわけである。「台湾を基地にすれば、西太平洋全域の活動が自由になり」、日本のシーレーンにも影響が出る。台湾の戦略的重要性は言うまでもない。さらに、より大きな問題は、東南アジアへの政治的影響である。南シナ海以外に海洋への出口を持たないタイやベトナム等にとって、「航通路を扼するという事は、その国の死命を制する」ことになる。米国の経済・安全保障上の利益は、西太平洋・東アジアからインド洋・南アジアにかけての地域における動きと密接に関連している。台湾を取れば、中国は台日、台米等のつながりをいつでも断つことができる。台湾の戦略的価値が非常に高いことは明白である。